

ウイルス分離及び抗原検出情報 2016年

ウイルス分離(仙台市内医療機関)

	第4週(最終)	第5週(中間)	第6週(中間)	第7週(中間)
	1月25日～	2月1日～	2月8日～	2月15日～
インフルエンザウイルスA(H1)pdm09	13(12)	3	6	0
A(H3)型	0	1	0	0
B型(山形系統)	1	1	1	0
B型(ビクトリア系統)	0	2	0	0
C型	1	2	1	0
解析中	1	1	6	9
RSウイルス	2	1	2	3(2)
ヒトメタニューモウイルス	2	1	2	1
ムンプスウイルス	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0
エンテロウイルス	0	0	0	0
ライノウイルス	0	0	0	0
単純ヘルペスウイルス	0	0	0	1
サイトメガロウイルス	2	0	0	0
パラインフルエンザウイルス				
1型	0	0	0	0
2型	0	0	0	0
3型	0	0	0	0
4型	0	0	0	0
解析中	0	0	0	0
未同定	0	0	0	0
分離総数/検体総数	22/50	12/41	18/56	14/42

抗原検出状況(仙台医療センター)

	第4週	第5週	第6週	第7週
	1月25日～	2月1日～	2月8日～	2月15日～
インフルエンザウイルス	46/186	15/108	10/85	15/101
A型	46	15	7	14
B型	-	-	3	1
RSウイルス	0/4	2/13	0/9	2/21
ノロウイルス	2/9	0/5	0/6	2/7
ロタウイルス	0/9	0/5	0/5	0/6
アデノ(便中)	1/9	0/5	0/5	0/6
アデノ(呼吸器)	1/10	0/14	0/17	0/16
アデノ(眼科)	0/0	0/0	0/0	0/0
※溶連菌	0/8	0/6	1/9	1/6
水痘帯状疱疹	1/1	0/0	0/0	0/0
単純ヘルペス	0/1	0/0	0/0	0/0

今週のコメント:

- ①2016年第2週より、インフルエンザウイルス迅速診断の提出数、陽性数ともに増加しており、流行期に入ったと思われます。ご注意ください。ウイルス分離では、第3週まではA(H1)pdm型が多く分離されていましたが、第4週以降にはA(H3)型、B型山形系統、B型ビクトリア系統、C型も分離されています。
- ②インフルエンザウイルスA(H3)型につきまして、2014～2015シーズンと同様に、MDCK(イヌ腎臓由来)細胞へ細胞変性効果が現れるまでの時間が長くかかっており、結果として同定の実施が遅くなっています。
- ③第4週から継続して「ヒトメタニューモウイルス」が分離されています。

(文責:大宮)

なお、これらの成績は主に以下の医療機関から定期的に送られてくる検体を解析したものです。
*永井小児科医院、庄司内科小児科医院、仙台医療センター

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター 2016年2月23日